

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、持ち直しの動きがみられる。
先行きについては改善の動きがみられるものの、一部に不透明感がみられる。

- 経営者の景況感DIは、▲41.0と、前期比で0.9ポイント増加し、3期ぶりに改善した。
業種別では、製造業は2期ぶりに悪化し、非製造業は2期ぶりに改善した。
- 景況感の先行きDIは▲11.9と、前回調査比で5.8ポイント増加し、2期ぶりに改善した。
- 売上げDI、資金繰りDI及び採算DIは2期ぶりに悪化した。
- 設備投資の実施率は20.3%で、2期ぶりに増加した。
- 来期については、売上げDI、資金繰りDI及び採算DIは当期DIより改善する見通しである。
また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、DIを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和5年10～12月期、「当期」：令和6年1～3月期、「来期(先行き)」：令和6年4～6月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感DIは▲41.0となり、3期ぶりに改善した。前期比で0.9ポイント増加し、前年同期比では6.1ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲46.9)は2期ぶりに悪化し、非製造業(▲36.4)は2期ぶりに改善した。

<景況感DIの推移>

	当 期 (R6.1-3)	前 期 (R5.10-12)	前年同期 (R5.1-3)
全 体	▲41.0	▲41.9	▲47.1
製 造 業	▲46.9	▲44.6	▲49.3
非製造業	▲36.4	▲40.0	▲45.4

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は9.5%（前回調査(R5.10-12月)比+2.4）、「悪い方向に向かう」とみる企業は21.4%（前回調査比▲3.4）だった。

先行きDIは▲11.9（前回調査比+5.8）と、2期ぶりに改善した。

<来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きDI (R6.4-6)
全 体	9.5%	21.4%	▲11.9
製 造 業	9.5%	21.7%	▲12.1
非製造業	9.5%	21.2%	▲11.7

2 売上げについて

売上げD Iは▲25.8（前期比▲18.1）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R6.1-3)	前 期 (R5.10-12)	前年同期 (R5.1-3)	来期見通し (R6.4-6)
全 体	▲25.8	▲7.6	▲27.0	▲8.9
製 造 業	▲28.1	▲8.4	▲29.3	▲8.6
非製造業	▲24.0	▲7.0	▲25.3	▲9.1

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲23.2（前期比▲6.4）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより改善する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R6.1-3)	前 期 (R5.10-12)	前年同期 (R5.1-3)	来期見通し (R6.4-6)
全 体	▲23.2	▲16.8	▲25.5	▲13.5
製 造 業	▲26.0	▲18.0	▲26.6	▲15.7
非製造業	▲21.0	▲15.9	▲24.6	▲11.8

4 採算について

採算D Iは▲28.5（前期比▲5.9）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R6.1-3)	前 期 (R5.10-12)	前年同期 (R5.1-3)	来期見通し (R6.4-6)
全 体	▲28.5	▲22.7	▲36.4	▲16.1
製 造 業	▲30.5	▲20.6	▲37.6	▲18.3
非製造業	▲27.1	▲24.2	▲35.5	▲14.4

5 設備投資について

実施率は20.3%となり、2期ぶりに増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は3期ぶりに増加し、非製造業は2期ぶりに増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

＜設備投資の実施率＞

	当 期 (R6.1-3)	前 期 (R5.10-12)	前年同期 (R5.1-3)	来期見通し (R6.4-6)
全 体	20.3%	19.3%	20.8%	19.6%
製 造 業	23.2%	22.9%	24.5%	22.8%
非製造業	18.1%	16.6%	18.0%	17.1%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP13以降を御覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・自動車関連をはじめ設備投資の動きが低調であり、不況である。
- （輸送用機械器具）・自動車関連の受注が弱含む一方、新しい分野の受注が堅調。景況感は普通である。
- （プラスチック製品）・業界全体の景況感は良くないが、自社は大手を中心に引き合いが堅調で好況である。
- （食料品製造）・売上は堅調だが原材料や人件費の上昇分を賄えていない。景況感は普通である。
- （金属製品）・産業用機械や医療機器の受注が落ち込んでおり、不況である。
- （百貨店）・外商を中心に高額商品の売れ行きが堅調であり、好況である。
- （スーパー）・巣ごもり消費の特需が無くなった中でも売上げが増加しており、好況である。
- （建設業）・景況感は普通だが、資材などコストの上昇で採算の確保が難しくなっている。

【売上げ・採算】

- （銑鉄鋳物）・受注が低調な中、価格転嫁も十分でなく、採算性は悪くなった。
- （金属製品）・空調や現金処理機の関連する受注が堅調であり、売上高は増えた。
- （食料品製造）・大手外食チェーンやコンビニでの商品取り扱いが拡大し、売上高は増えた。
- （印刷業）・価格転嫁により受注単価は上がったが受注量が減少し、全体の採算性は悪くなった。
- （スーパー）・改装店での生鮮品や総菜の販売が好調で、採算性は良くなった。
- （情報サービス業）・自治体情報システムの標準化についての受注が堅調であり、売上高は増えた。

【今後の見通し】

- （一般機械器具）・半導体市況はまだ底を打ってない。回復は今年の後半以降になるのではないかとみている。
- （輸送用機械器具）・大手自動車メーカーから4月以降減産するとの話が来ており、受注は減少する見込み。
- （食料品製造）・原材料費や人件費に加え、物流費も上昇する見込みであり、先行きは不透明である。
- （印刷業）・ペーパーレス化の流れは今後も続くため、悪い方向に向かうとみている。
- （商店街）・観光客が増えてきており、良い方向に向かうとみている。
- （旅行業）・引き続き各団体（企業、学校等）からの問い合わせが多く、良い方向に向かうとみている。
- （建設業）・建築コストの上昇と人手不足により、設備投資計画の遅れが懸念される。